令和８年４月１９日開催　市長と語る！新タウンミーティングの概要

１　日程等
（１）開催日　令和８年４月 19 日（日）午後２時開会（午後３時 40 分閉会）
（２）会　場　くまぴあ　創作ルーム３０４
（３）テーマ　市長の基本政策・令和８年度予算について

２　意見交換・質疑応答の概要
市民）
　本日の会場のレイアウトについて、皆さん前の方の頭を避けながら前方のスライドを見ていたので、席を少しずらしたらもっと聞きやすいと感じました。
　また、クマＰＡＹの対象店舗のリストですが、地区別と 50 音順とあります。50 音順は既にホームページにできていますが、郵送には地区別のものしかついていない。50 音順が使いやすいと思うので、もし次の機会があるのであれば、そのように実施していただきたい。
市長公室長）
　ご意見ということで今お伺いしました。ありがとうございます。

（商業観光課）店舗名について、例えば「ヘアサロンくまがや」や「くまがや美容室」といったクマＰＡＹ取扱加盟店登録上の正式な屋号がある一方で、日常的な呼称が「くまがや」である場合など、リストからの検索が困難になる懸念があります。
　そのため、主として「地区別リスト」を頒布するとともに、これを補完するものとして「50 音順リスト」も併せて作成しています。
　今後、店舗リストを送付する際には、利用者の方がより使いやすい掲載方法を検討してまいります。

市民）
　誰もが健康で活動し支え合う優しいまちづくりとありますが、これを達成するためには食品の面で、添加物を撤去するのが安全なんじゃないかなと思います。安心して食べられる食事が一番ではないかと思います。
市長）
　食品添加物については、特に給食の話をさせていただきましたけれど、学校給食における食の安全が守られるように、担当する部門には引き続き伝えていきたいと思います。



普段売っているものについては、市として意見を伝えることができるかもしれませんが、一般的に販売をされている食品については、国の方で安全基準が定められて、それに基づいて売られているものですから、市の立場から一律に添加物を排除するというのはなかなか厳しいのかなと考えています。機会を見て国に意見を伝えていきたいと思います。

市民）

市街化調整区域、市街化区域、そういう区別があって人口が増えても家が建てられない。家を建てるための要件の緩和、要するに、家を建てることができるエリアを広げてもらいたいと思います。その点は熊谷市としてはどうお考えでしょうか。緩和や見直しが進めば、安くみんなが住むことができ、建築関係も盛んになると思うので、見直してほしいです。

市長）

今の意見は農地から宅地に転用して家を建てるということだと思うんですが、ただその中の前提として一つ申し上げます。人口が増えているというお話をいただきましたが、20 年で生まれる子供の数が半分になっています。その中で、空き家がどんどん増えてきています。そうなってくると、開発をしたいというお気持ちはわかるんですけれども、今熊谷市とすると「空き家をどうするか」というのが一番大きな問題になっています。

市長として悩ましいのは「新しい家を建ててくれたら若い人が来てくれるだろう」と思うのが一つ。でもその代わり、どんどん家が建って、空き家が増えていってしまうと、管理するのがちょっと今大変な状況だなというのがあります。

そこがとても悩ましいところではありますけれども、場合によっては、地域で「本当にこの地域を宅地として開発をしたいんだ、そのことによって人が増えるよ」という、１軒２軒じゃなくて何かあるようでしたら、そういったものを市としても取り組ませていただけたらとは思います。

例えば利根川に新橋ができて道が繋がることによって宅地が必要だという、そういう必要性が出てきたときには、新しい取組もできるのではないかなと思います。なかなか開発というのは難しい状況にあるということだけご理解いただきたいと思います。

市街化調整区域の宅地化については、様々な法律上の制限がございますので、詳細については開発審査課まで、さらに、市街化調整区域内の農地の宅地化については、農業政策課及び農業委員会に御相談ください。

市民）

先日、市県民税の申告に行きました。古い生命保険の控除証明書を持っていってしまい、また次の日も申告に行きました。職員ではなくアルバイトの方々だと思いますが、２日とも「風が強いから気をつけて帰ってくださいよ」とか、あるいは「もう３時半ですからもうそろそろ暗くなってくるかな」とか職員の一言が足りないかなと思います。その一言を言えば「市役所は親切だった」となります。部課長会議があると思いますが、その席で話をして徹底していただければと思います。

市長）

今の件は部課長会議も含めて、いろいろな形で職員に伝えたいと思います。

（政策調査課）いただいた意見について、市長から部課長経由で各職員に向けて周知が行われました。

市民）

私達の地域も 65 歳以上の人が半分以上になってきています。その中で介護の支援として移動車での販売がありますけども、どのようにすれば利用できるのか教えていただきたいです。

市長）

買い物支援については今ウエルシアさん等のお力をお借りして展開しています。長寿いきがい課という課がありますので、そこから連絡をさせますので、ウ

（長寿いきがい課）場所の確保、利用者の見込み数、希望時間帯等を確認した上で、自治会経由で長寿いきがい課にご連絡をお願いします。なお、ご依頼後、少なくとも数か月以上お待ちいただく状況です。

エルシア等と協議させていただいて、地域のどの辺に車を回させていただくかを検討させていただきたいと思います。

市民）
　先ほどの人口減について、熊谷市は毎月 100 人以上、埼玉県内での１、２を争うぐらい人口が減っているかと思います。これは何が原因で、その原因に対してどのように具体的な対策を打ち立てているのか、「新熊谷ブランドの創造」の中に入っているのか教えてください。
市長）
　毎月 100 人という話がありましたが、そこまでは減っていません。
　人口を増やすためには、自然動態と社会動態の２つがあります。自然動態というのは、何人お子さんが生まれるかということになります。ここの部分は、残念ながら本当に着々と人口が減っているのが事実です。
　社会動態というのは、外から熊谷に引っ越してきてくださる方。先ほども家が建てられるようになって外から来る人を受け入れてほしいという話がありましたが、本当に今悩ましいのが、籠原エリアに宅地がないんです。ですから新しい家が建たないというのが現実です。一方、実は空き家率が一番高いのは熊谷駅の周りなんです。こういったところがうまく循環をしていかないと、なかなか人口は増えないのかなと思っています。
　宅地を増やしたいんですけど、都市計画だと用途地域で、住居地域といいますが、熊谷市でも住居地域に定められているが、人気のあまりないところがあるわけです。新しい住居地域というのは、県内でも人口が減少しているエリアでは、新たにつくることができませんよというのが県からも言われています。
　出生による自然増が増えていないということもあって、先ほど申し上げたように今の人口減にどう抗うかというと、社会増。そのための企業誘致。企業が来れば人が来る、働く場所があれば人も定着できるというのが私の考え方で、駅の周りにまずはオフィスをつくってもらう。あわせて、産業団地をつくるのも働く場所づくりだと思ってください。
　単純に人口がどうやったら増えるかというのはなかなか難しいですが、今の熊谷市には企業がまだまだ少ない。企業を増やしてまちを豊かにして、持続可能なまちに変えていくこと、次の世代にしっかりと引き継いでいけるものを揃えることが私の役目だと思っていますので、そういう形で対応させていただきたいと思います。

市民）
　私はスポーツ観戦が好きなので、先日野球を見てきました。無料開放日だった

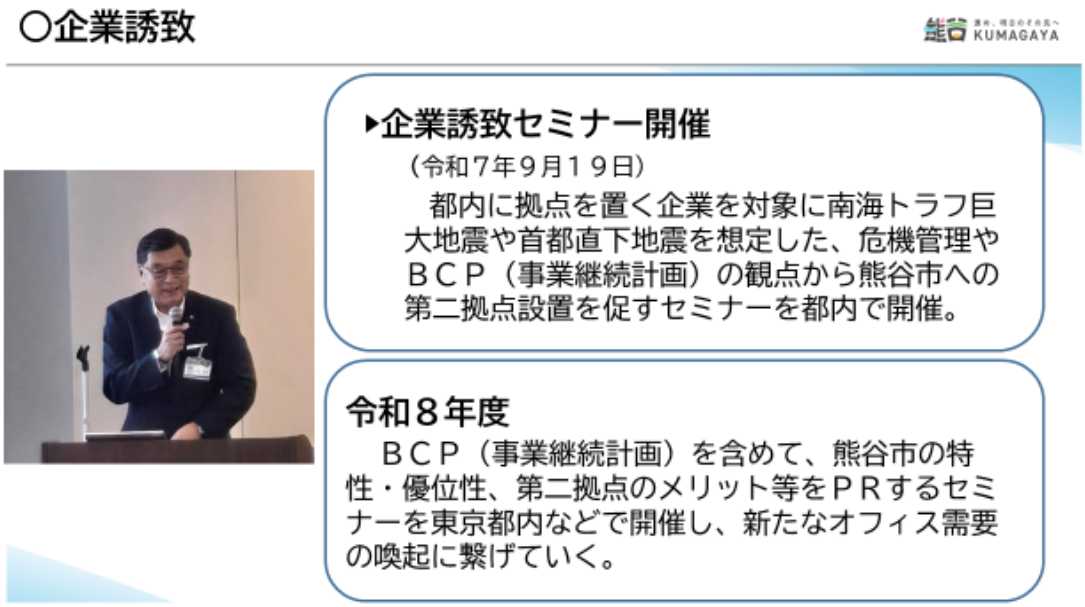
のですが観客が全然いないんです。女子サッカーの試合も少ない日だと観客が500 人しかいません。子供たちが無料で入場できる日があっても観客が少ない。ラグビーの試合も観客が少ない。もう少し観客動員をかけるような政策を出していただけないかなと思います。

市長）
　埼玉武蔵ヒートベアーズの試合やちふれ AS エルフェン埼玉の試合にもお越しをいただいてありがとうございます。本当に頭の痛いところですが、市としても、スポーツ熱中都市宣言をしておりますので、自分がスポーツをすることと、それから併せてスポーツを観戦すること、どちらも熱中をしていただけるような取組としてはスマートフォンを使ってご案内、ニュースや試合日程も全て配信していますが、そこから先をどのようにしたら観客が増えるのかというとなかなか難しいですね。いずれにしてもスポーツタウン推進課もあって、そういった取組もしっかり行っていますので、ぜひ温かく見守っていただけたらと思います。



市民）
　企業誘致セミナーの事業については非常に興味深く拝聴させていただきましたが、この目標や活動の詳細について、今後市民が見ながら応援をさせていただくことはできるのかなと思いました。
　熊谷にも上場企業がありますし、特に製造業になるかと思いますけれども、関連企業の誘致であったりとか提案先であったりと様々かと思います。この企業誘致セミナーの事業については 258 万円の予算を持っていらっしゃいますけれども、このセミナー事業に対して 258 万円がそもそも適正なのか、もっと使っ

てもいいのではないかと個人的に思っています。ご意見を聞かせていただけるとありがたいです。



市長）
　まずは心強いご意見とご質問ありがとうございます。予算についても、なかなか「これ適正じゃないの？」と言っていただけることは少ないものですから。
　新幹線が走って、良かったことと悪かったことがあります。良かったことは住んでいる人にとっては東京が近くなったことです。一方、東京が近くなったことで、今まで熊谷にあった事務所が撤退してしまい、市内の企業が減ってきました。
　こうした状況を受けて、企業誘致セミナーを行いましたが、継続していくことで力になっていく事業だと思っていますのでご理解いただけたらと思います。
　熊谷は災害が少ないまちです。それに加えて、リモートでも十分に仕事が今できる時代になりました。仕事が終わって、余暇をどう過ごすか。皆さん熊谷には何もないと言いますが、いろいろな施設は他の自治体よりあるほうです。ですからトータルで考えると、熊谷は東京に通勤をする人や地元の企業に勤める人にとって、仕事や余暇も充実させられる場所だということを都内の企業の社員さんに知ってもらえるよう、しっかりとこの取組を継続していきます。
　その状況については、皆様にお伝えしてまいりたいと思います。

市民）
　市長は災害が少ないとおっしゃっていましたけれども、私がこちらに引越しするにあたって、ハザードマップをよく見たんですね。荒川と利根川に挟まれて

いますので、もう大洪水のところだと思います。線状降水帯が多いし空き家は多いし、そういう中でのその治水対策は、どのようにお考えでしょうか。

市長）

治水対策については市長になってずっと国土交通省に要望をしています。利根川については今年利根川新橋の位置が決まりますので、強化堤防についても引続きお願いをしていきます。

それから、荒川については、かわまちづくりの一環で、荒川大橋より下流から熊谷荒川緑地駐車場付近までについては、国土交通省による堤防整備を予定しています。

安心してくれとは言いませんけれども、そういう動きもありますのでご理解いただけたらと思います。